

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

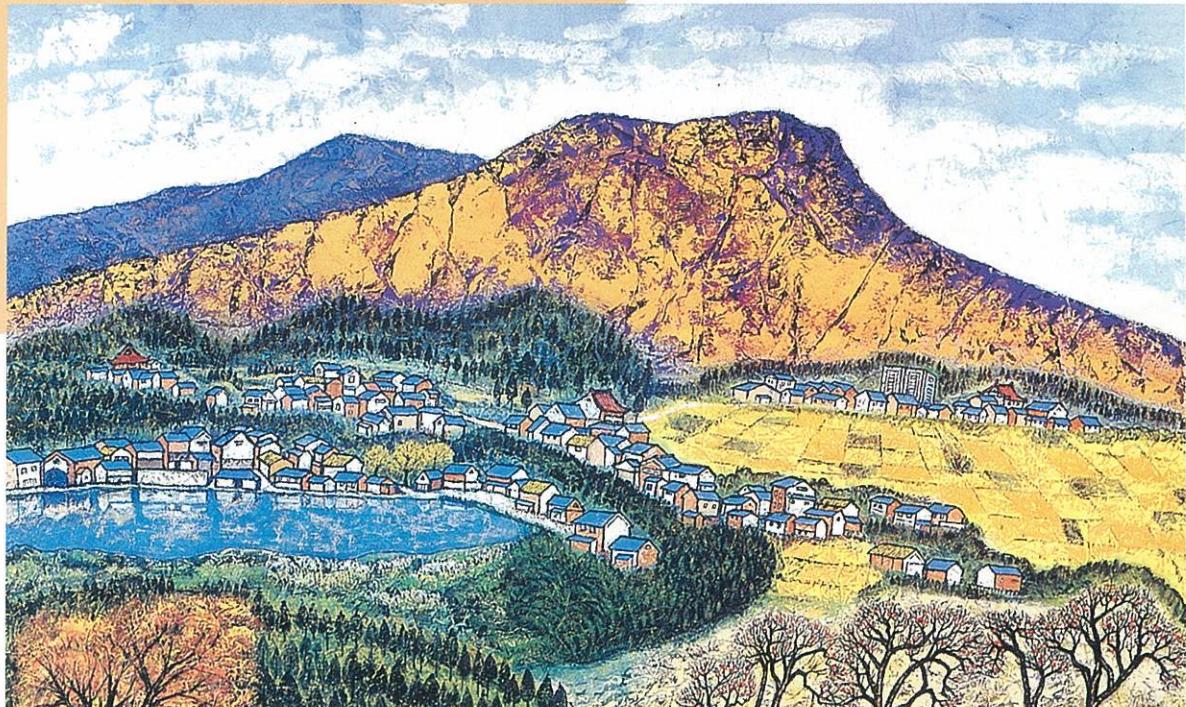
KEIWA

COLLEGE REPORT



第28号

〈SEPTEMBER 2001〉
発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

神学基礎講座 永野茂洋

「人文社会科学研究所」活動開始
台湾・中国の大学を訪問して

人気授業をサーチする／卒業生は今

2002年度入試のご案内／ボランティア実習を終えて
オープン・カレッジ〈秋の講座〉／第11回敬和祭

2001



「キチョウ」 2000.10. 三川村にて撮影

9月～11月にかけて、多く発生する蝶。
撮影したときは、10月中旬で、いちばん数が多い時期でした。食草（メドハギなど）にサナギが何十、何百もぶらさがっているような状況でした。撮影したのは夕方で、紅葉した葉の上で寝ているキチョウを夕陽の光で撮影しました。

(撮影者 1995年度卒業生 坂井信介)

もくじ

神学基礎講座	永野茂洋	1	2002年度入試のご案内	9	
「人文社会科学研究所」が活動を開始しました	石川喜一	4	ボランティア実習を終えて	松永 献	10
人文社会科学研究所主催連続講演会		4	「七夕物語」ありがとう!!	加藤圭子	10
台湾・中国の大学を訪問して	北垣宗治	5	オープン・カレッジ〈秋の講座〉		11
本学学生中国語講座で活躍		5	ゼミ紹介	山田耕太	11
人気授業をサーチする		6	2001年度保護者との懇談会		12
卒業生は今		7	2001年度企業との就職懇談会		12
オープンキャンパス	横山美幸	8	第11回敬和祭		13
中学校・高等学校でのインターシップ		8	学事予告／寄付者ご芳名		13

<表紙> 安 藤 唯一 「畠傍は秋晴れ」

(安藤司文 本学教授 お父上 日曜画家 画集「表象を描く」から)

神学基礎講座

教 授 永 野 茂 洋



本年度から、KCOP、すなわち「敬和

学園大学アウトリーチ・プログラム」の一
環として、夜間の「神学基礎講座」が開設
されることになった。ちょうど前期のプロ

グラムを終えたところでもあるので、中間
報告も兼ねて、以下この講座について若干
記すことにしたい。

「神学基礎講座」の設置と課題

もともと敬和学園大学は、福音主義キリ
スト教の精神に立脚したリベラル・アーツ
教育を建学の理念とする大学である。「神
学基礎講座」は、その福音主義キリスト教
の根幹をなす事柄について、広くキリスト
教とその文化に関心を寄せる地域の方々
や、福音主義教会の信徒、学生が、それぞ

れの目的に応じて、多角的・集中的に学ぶ
ことのできる機会を提供したいとの趣旨で
設置されたのである。特に、福音主義教会
の信徒の中には、日本キリスト教団認可の
神学校（東京神学大学、同志社大学神学部、
関西学院大学神学部、日本聖書神学校、農
村伝道神学校）を出すに、教師検定試験を
受けて牧師となり、教会と人々に仕えよう
という方が近年増えつつある。そのような
方にも役に立つプログラムを提供したい。
これも講座の設置を強く促した要因の一つ
であつた。

この講座の原プランは、開学以来一部の
教員の間で何度も話し合われ、温められて
きたものであるが、それがこうして現実と
なるまでには、結果的に十年間かかったこ
となる。地方の私立大学の在り方や、社会
と大学との関係、教会と大学との関係など
について、大学が地域社会や教会の声に
耳を傾け、自分たちを社会に開かれたもの
へと体質改善して行くのに、やはりこれだけ
の時間が必要だったということである。

「旧約聖書学」のクラス

さて、その「神学基礎講座」であるが、
本年度は三種類のクラスを準備した。前期
開講の「キリスト教と諸宗教」、それに
「旧約聖書学」、後期開講の「新約聖書学」
の計三クラスである。「キリスト教と諸宗
教」のクラスは、エキュメニズムの時代に
おける他宗教との対話という現代キリスト
教の実践的側面をテーマとする。他方、
「旧約聖書学」と「新約聖書学」の両クラ
スは、「旧・新約聖書」の成り立ちと内容に
についての概説を目的とした、いわゆる「概
論」に相当するクラスである。年度によつ
て、順次「聖書教義」や「聖書神学」に關
するテーマも取り上げ、最終的には両クラ
スとも三年で一巡するという予定である。

もちろん、十年目にしてやっとスタート
ラインに着いたところであり、先はまだま
だ長い。例えば、この講座を東アジア地域

CLOSE UP

来年度は、「新約聖書ギリシア語入門」のクラスも開講する予定である。

私が担当した前期の「旧約聖書学」は、四月十日から七月十七日まで、計十四回の授業を行った。時間は毎週火曜日の夜七時から八時半まで。しかし、一回九十分ではなかなか收まりきれず、九時近くまで延長した日も何回かあった。受講者は六人で、全員が社会人であった。皆さん毎回二時間近くの講義に大変熱心に耳を傾けてくださった。授業は一回にA4版で三~四ページ、全体で五十ページ近いレジュメを作成、配布して、それに基づきながら進められた。そのほかに関係史料も若干用いた。内容は、前半は旧約聖書の正典と本文についての基礎的事項を簡単に確認した後、旧約研究史の大きな流れを押さえ、代表的な二~三の仮説について解説した。それを通して、神学的思考と聖書学の方法論がこれまでに織りなしてきた、緊張した精神のドラマの一端に触れるというのがねらいであった。後半は、主としてモーセ五書と歴史書の記者・編集者であるヤハウイスト、エローヒスト、祭司、申命記史家たちの思想的な特色と神学について、それぞれ議論した。

「概論」か、それとも「演習」か？

ところで、先ほどは便宜上「概説」とか「概論」という言葉を用いた。どの学問分野でも「概説」、「概論」というのは、その学問分野の、その時点での一般的な共通認識をバランスよく提示するのが仕事である。しかし、旧約聖書学の場合には、これが実はなかなか容易ではない。特に、かつての「アンフィクティオニー仮説」のように、イスラエルの歴史と文書としての旧約

聖書の成り立ちそのものを密接に結合させて説明していた大学説が、長い論争と批判を経て崩れ去つてしまつてからというものの、旧約学の分野では、世界の研究者の大半が認めるような「定説」は生まれておらず、百人の研究者がいれば、百通りの理解があるといった状態である。その意味で、いわゆる「概説」、「概論」が成り立たないのである。

例えば、ヤハウイストの年代について、これを紀元前八世紀の王国時代盛期とする「定説」がある。しかし、他方では、それをバビロン補囚期後の時代、すなわち、王国などとつぶくに滅亡し、すでにペルシャ帝国の支配下に入つていた紀元前六~五世紀頃と見る見解もあつて、充分説得力がある。人類の誕生と墮罪の物語、ノアの洪水の物語、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフと続くイスラエル民族の父祖たちの物語。これらは極めて印象深い「創世記」の物語を編集し、現在の文脈を作つたのが学問上ヤハウイストと呼ばれる人物である。その彼の時間・背景が、このように大きく二世紀から三世紀もずれてしまうようなどころでは、ヤハウイストについて学問的に中立で一般的な概説をするなどということは、まず不可能である。たとえできたとしても、そのような無難な概説には、おそらく何の意味もないということにならう。

「バベルの塔」のヤハウイスト

それにもしても、ヤハウイストという人物の思考の強靭さは、聖書を読む度に、その都度改めて驚嘆させられる。一例として、有名な「バベルの塔」の物語を見てみよう。短い、御伽噺めいた物語であるが、ヤハウイストの発想の仕方を知るにはうつつけの部分である。

全地は同じ発音、同じ言葉であつた。時に人々は東に移り、シナバルの地に平野を得て、そこに住んだ。彼らは互いに言った、「さあ、れんがを造つて、よく焼こう。」こうして彼らは石の代わりにれんがを得、しつくいの代わりに、アスファルトを得た。彼らはまた言つた、「さあ、町と塔とを建

のはこの場合にはない。

これは要するに前提が間違つているのである。はじめから「概論」とか「概説」といった発想は放棄して、ヤハウイストならヤハウイストについて、彼がどのような信仰、思想の持ち主であるかを聖書から直に推論していく、その作業そのものを紹介すればいいのである。研究者の見解を鵜呑みにせず、もう一度はじめから材料を集め直し、一つひとつ推論を積み上げていくというやり方である。これはもう「演習」である。しかし、そうやって全くの最初から、直接ヤハウイストに迫つて行く作業をするのであれば、初学者か、上級者かなどという区別は、それほど意味を持たないに違ひない。「演習」は専門課程の授業という、従来のカリキュラム觀に基づいた思い込みをやめて、「演習」こそ学問の入口であると氣づけば、後はそれに即した工夫をするだけということになる。

CLOSE UP

てて、その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう」。時に主（ヤハウエ）は下つて、人の子たちの建てる町と塔を見て、言われた、「民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしばじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もどぞめ得ないであろう。さあ、われわれは下つて行って、そこで彼らの言葉を乱し、互いに言葉が通じないようにしてよう」。こうして、主が彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建てるのをやめた。これによつてその町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を乱された（バーラル）からである。主はそこから彼らを全地のおもてに散らされた。（創世記十一章一～九節）

ヤハウイストが手を加える以前に、これがどのような物語であったかは必ずしも確定していない。おそらく、バベル（バビロン）の名前の由来をバーラル（乱れるといふ動詞）に結び付けて、多様な民族と多様な言語がいかにして生じたのかを説明する原因譚的物語であつたようである。ヤハウイストは、その物語を修正して現在の文脈に仕上げた。しかし、この物語の文脈はどうもすつきりしていらない。

例えば、通常この物語は、町と塔の建設に対して神が裁きを下し、民が全世界に散らされた物語と理解されている。しかし、ここでには、神が町や塔を壊して、その建設を止めさせたとは書いていない。つまり、町の建設は結果的に断念されてしまつたが、町や塔それ自身が神の裁きの対象だと受け止められてはいない。むしろ、それを避けよう、文脈をわざと曖昧にしているとの

印象を受けるのである。裁きの言葉は、民が一つであること、言葉が同じであることに向かられている。

文化・民族・言語

町や塔の建設、そのための技術の改良。これは人間の生が要求する文化的な行為の代表的なものであるが、ヤハウイストは、そのような文化的な行為を単純に否定しているわけではなさそうである。文化なしに人は生きられないからである。しかし、人間はその文化の中で、罪に陥る。これがヤハウイストの見方であるらしい。文脈の曖昧さは、事の一面的な見方を排するヤハウイストのそのような両義的な発想を示唆する。そのようなものとして、曖昧さをむしろ積極的に受け止めるべきことを私たちは教えられる。多様な民族が存在しているという事実、いろいろな言語を人々が話しているという事実は、同時代の多くの者にとっては自明の事柄であつただろう。しかし、彼にとつては、これもまたおそらく両義的な言語がいかにして生じたのかを説明する。

諸民族が一つの民のようになつて、人々の間にコミュニケーションが成り立つこと。これはそれ 자체としてはむしろ喜ぶべきことであるに違いない。しかし、大文明は、周辺の弱小民族を政治的・文化的・宗教的に吸収、支配することによって「一つの民、同じ言葉」を実現しようとした。自分たちの生存のために、自分たちの力を無限に拡大させ、安全を図ろうとする。そのためには宗教を利用する。そのような文明生活の根底にある、不安に駆られた人間の根源的な欲求。そこにヤハウイストは神から離反した人間の有り様を見据える。

「一つの民、同じ言葉」の生き方は神によつて塞がれる。

さまざまな民族の存在、さまざまなる言語の存在という現状は、その意味でバベルの支配からの解放の結果である。多民族状況、多言語状況に対する肯定がここにはある。しかし、同時にそれは、民が全地に散らされていること、言葉が通じず、乱れていることであつて、単純な肯定ではない。ヤハウエはイスラエル以外の民の神でもあるのか。ヤハウエは他の言語によつても理解され、礼拝されるのか。しかし、人々は、依然としてヤハウエに対して真に「一つなる民、同じ言葉」とはなつてない。ヤハウイストにとつて、これは、民族と言語が神の裁きの下にあるということなのである。そこから諸民族、諸言語が真に「一つなる民、同じ言葉」へと形作られていくこと。これが問題であり、人類の課題なのだと見えたのである。

その課題を担つた歩みを、聖書では、やがてアブラハムが開始することになる。「バベルの塔」の物語は、それに先だつて民族と言語という人間にとつて生得的で、自明で、変更不可能と思えるものが、いかに相対的なものであるかを一挙に明らかにして見せる。そのことによつて、ヤハウイストはこの多民族、多言語状況を神の救済史の中の事柄として見るよう促すのである。

以上のよう考察を「バベルの塔」以外の物語からも広範に集めてきて、それを組み合わせ、推論し、修正しながらヤハウイストの全体像に迫つて行く。これはスリリングで、楽しい作業である。

「人文社会科学研究所」が活動を開始しました

人文社会科学研究所長 石川 喜一



主催：同シンポジウム実行委員会 敬和学園大学、関入文化系科学研究所
開催日：6月30日（土）午後1時半～3時半
会場：敬和学園大学本館2階
参加料：無料

創立十周年を迎えた敬和学園大学に研究所ができました。「人文社会科学研究所」といいます。研究員は敬和学園大学の専任の教員全員です。生きている社会の文化、文明の諸問題について、英語英米文学科、国際文化学科の教員が専門領域の壁を越えて学内、学外の研究者と共同研究します。

そして、その研究成果を地元社会に還元することを目的としています。研究所の運営について企画し、実施する研究所委員会もできました。尋真館二階の共同研究室が研究所の場所として当てられることになりました。北垣学長には台湾の高雄、中国の長春訪問直前の忙しい時期でしたが、「敬和学園大学人文社会科学研究所」と新しい看板に墨書きしていただき、掲げました。

研究所の活動開始の記念イベントとして六月三十日に学内で「日本人の自然観－日本と西洋との比較－」

という記念講演会を開催しました。講師は渡邊正雄東京大学名誉教授でした。渡邊先生の話は、日本では人間を自然の一部と見てきたが西洋では人間は神が造ったもので自然是研究の対象であった、そして自然科学が誕生した、という内容でした。学内の教員や学生のほかに新発田市民、新潟大学、国際情報大学の教員も含め約五十名ほどが耳を傾けました。実はこの研究所が目指すところは従来の人文学の範囲を越えた人文・社会科学と自然科学の融合になります。記念講演会としてまことに相応しいものでした。

七月十五日には新潟環日本海研究ネットワークを中心としたシンポジウム実行委員会が主催する国際シンポジウム「東北アジア歴史像の共有を求めてⅡ」を学内で共催しました。歴史教科書の内容が問題になっている時期もあり、ロシア、中国、韓国、台湾、そして日本の歴史研究者がそれぞれの研究成果を発表し討論しました。大変に意義ある国際シンポジウムで一般市民も含め延べ約一五〇名が集まりました。

今後、敬和フォーラムや市民大学的講演会の開催、中学・高校の先生方を対象とした英語講習会などを企画していくたいと思っています。そして敬和学園大学が地元社会に定着するように努力してまいります。

人文社会科学研究所主催で連続五回の講演会を行います。第一回目は、作家の小田実氏を講師にお願いし、十月三日（水）に盛況のうちに終了いたしました。この連続講演会は、どなたでもご自由に参加できます。直接大学までお越しください。
（入場無料）

「激動する世界と日本」

済	10/ 3	「テロに対する報復戦争は正当か？」 作家 小田 実氏
②	10/24	「日本経済崩壊の原因を探る：土建国家の行末」 ※講演は日本語で行います。 オーストラリア国立大学教授 ガヴァン・マコーマック氏
③	11/14	「慰安婦問題の歴史と現状」 アジア女性資料センター代表 松井 やより氏
④	11/21	「戦争の記憶をどう伝えるか」 都留文科大学教授 笠原 十九司氏
⑤	11/28	「東アジアの非軍事化へ向けての市民運動の展望」 ピープルズ・プラン研究所共同代表 武藤 一羊氏

※時間は、いずれも13:00～14:30です。

※会場は、敬和学園大学内です。教室は当日ご案内いたします。

台湾・中国の大学を訪問して

学長 北垣 宗治

本学学生 中国語講座で活躍

で、条件さえととのえば敬和学園大学に短期留学させたいとの熱心な希望が表明されました。

敬和学園大学は開学当初から米国のノースウエスタン大学ならびに中国の長春師範学院と協定を結び、教育・研究面での交流の下地を作つてきました。本年の六月から七月にかけて、短時日ではありましたが、私は山田耕太教務部長とともに台湾と中国の諸大学を訪問しましたので、簡単に報告いたします。

台湾南部の中心的な都市は高雄です。大海宏教授の義弟にあたられる喜田修氏が交流協会高雄事務所長、つまり「総領事」の仕事をしておられ、喜田さんのご紹介により台湾の四大学を訪ねることができました。まずキリスト教学園である台南市郊外の長榮管理学院を訪問。これは五月に本学を表敬訪問された高俊明先生の母校にあたる重要な学校で、台湾大学を定年退職した日本語学者を招いて日本語教育に力をそそいでおり、来年は「大学」としてのステータスを達成するとのことでした。学園の歴史をビデオで見せていただき、数学者である学長とは英語で突っ込んだ話し合いをすることができ、将来の交流のための足場を築くことができました。

樹徳科技大学 国立高雄第一科技大学は千人の学生を擁して厳しい競争を展開していました。国立高雄師範大学は戦前から存続した学校で、図書館の立派さに感銘を受けました。どの大学でも日本語は重要科目



八年ぶりに訪れた中国東北の長春師範学院はキャンパスも学生数も八年前の三倍に増えました。コンピューター教室に行くと、敬和学園大学のホームページが大きなスクリーンに写されており、説明はすべて中国語になっていました。今回新しい協定書に調印したときの写真がこれです。いまや六千人規模の大学に成長し、学生の半数は吉林省から、他の半数は全国から来ています。全寮制で、大食堂では何軒もの店が競争で食事を提供していました。

北京では北京大学の賈惠萱教授に北京で一番おいしい北京ダックの店でご馳走になりました。そのほか河北大学の陳俊英先生、对外经济贸易大学の李淑芳先生ともみつかりと懇談し、留学生交換について話し合いました。敬和学園大学からも進んで中国や台湾の大学に留学する学生が現れることを期待いたします。



聖籠町では、一九九七年から中国ハルビン市と聖籠町の教育委員会が中心になり、毎年小学生の交流を行っています。その際、ホームステイを利用していることから、毎年間に中国語講座を開講し、コミュニケーションがとれるよう町民が勉強しています。これまで新潟大学の先生が担当していましたが、転勤になつたため、後任の紹介依頼がありました。

そこで、北垣学長や松本広報委員長と相談の上、国際文化学科四年次生の李華穎さんを推薦しました。李さんは北京出身で、現在新発田市内のアパートに居住しています。日本語も大変堪能で、先日長春師範学院の副院長一行が来学された際には、二日間わたり李さんが通訳を立派にこなしました。

第一回目の九月一八日には六人の受講生が参加しましたが、毎年継続して受講している上、中級者や、初めて中国語に接する初心者まで様々で、講師としては苦労したようです。しかし、参加者からは、李さんの日本語の発音がきれいで、授業もとても楽しかったとの感想をいたしました。講座は三月まで、講座は続きます。(長澤)

人気授業をサーチする

文化人類学 新たなる発見

英語英米文学科一年 高橋 健

私たちの日常生活には、あまり馴染みがない。しかし他の文化を勉強することはとても大切であると思う。私たちは日本の文化の中を生きているということ、日本という一つの国の中にも地方や地域によって様々な文化があるということ、また外国の文化や何々族の文化、今ではなくなつてしまつたと思われていることが実は陰で生きているということなどをこの授業で学んでいる。日常生活の中で馴染みがない分、全く知らない他の文化を勉強することは大事なことであるし、また文化人類学に興味を持ち、自ら進んで勉強していき、新たな発見ができるかもしれない。他の文化を学び自分の文化と比較してみて初めて自分の文化を理解できるものだと思う。外国に行旅して「変だな、おかしいな」と違和感を感じるかもしれない。でも私たちがおかしいと思つてることは向こうの文化にとつては当たり前のことであり、私たちが当たり前にしていることが向こうにとつてはおかしいと感じられるのかもしれない。様々な文化を知ることによって一つの視点だけでなくあらゆる角度からものを見ていくことが多い。また授業で習った文化に、もし出会うことができればとても素敵なことと思う。

授業の様子については、先生は自分の体験を交えて熱心に色々な文化を教えてく

れ、その熱意が伝わってきてとてもすばらしい。先生は白板にたくさん書くが、そのままノートに写しただけでは、白板を見てもさっぱり分らない。後からノートを見て、頭の中で考え、九十分間しっかりと聞き、自分なりの補足も加えなければならない。

基礎演習

『載つたよ！先生、載つたよ！』

英語英米文学科一年 高橋 智美

「先生載つたよ！」と、松本ますみ先生に電話をしたのは、もう夜の十一時も回ったころでした。バイクでくたくたになつているにも関わらず、あんなに元気に電話をかけたのはなぜかと言ふと：

私が半年の間お世話になった、ますみ先生の基礎演習では、主にレポートの書き方を学びました。自分の主張の仕方や、参考文献の取り入れ方、どれをとっても初めて聞くものや、初めて使うものばかりでした。

しかし、習つたことを、使うようになるにつれ、次第に、自分は大学生なのだという実感がわき、勝手に一人でほくほくしていました。これは一般的にいう、自己満足なのでしょうね。それはさておき、授業の特色は？と聞かれると、何と答えていいやら分かりませんが、とりあえず言えることは、ますみ先生を筆頭に、ノリがいいといいますか、個性派ぞろいといいますか。そんな授業ですから、内容も他のクラスとは、一味も二味も違いました。何をしたかというと各新聞社への投稿ゲームです。そもそも、

また宿題がとても多い。大学とは自分で勉強する所である、という厳しさを伝える代表のような授業である。しかし、このようないい授業であつてもその厳しさを乗り越えてしまえば一番充実感溢れ、印象に残る授業であると思う。

この投稿ゲームにひかれて選んだ授業ですが、期待どおり、とてもやりがいがあります。何を題材に書くか、自分の何を主張するか考えていくと、現在の自分の立場が見えてきました。敬和にいる意味、自分は何をしたいかななど、このゲームを通して、意外な発見ができたことも大きな収穫です。そして、その結果が、題名にもあるあのセリフです。

ますみ先生の授業の楽しさは、言葉では表現しづらいのですが、受けて損はないはずです。ますみ先生の授業を紹介するためには、「受講してみたらいかがでしょうか？」というのが、一番だと思います。どの大学のどの授業にもチャンスは溢れています。そのチャンスをどのように活かすかが、受講するうえで大切な、大切な授業だといつても受け取っては、チャンスをものにできません。ますみ先生の授業は、そのようなことも感じさせる授業だと思います。ぜひ、お試しあれ。

卒業生は今

ほう・れん・そ

一九九七年度卒業生 中村 泰子

私は働き始めて三年目になります。仕事の内容は主にテレビやラジオ電波の受信・送信の事務処理です。テレビ局は映像を、ラジオ局は音を皆さんに提供するものです。が、私の会社はその電波を不都合なくお客様に提供することです。特に新潟県境は山が多く、テレビやラジオの電波受信がしにくいので、そのような地域にもより良い方法で受信していただくために私の会社は鉄塔を建て、その維持・管理をしています。皆さんのが持つている携帯電話の電波も、今まで圈外だった場所にアンテナを建てることで、通話エリアが拡大します。

就職以前から電波には日頃お世話になつてきましたが、目に見えない電波についてこんな仕事があることは自分にとつても驚きでした。

社会人になり、私はとにかく「ほう・れん・そ」（報告・連絡・相談）を徹底してきました。曖昧に理解していることは、納得するまで質問しました。そして、言われた仕事をし忘れたり、同じ失敗を繰り返したりするのが嫌なのでいつもメモを取っています。これは意外に大切なことで、メモがあればいつ書類を送付したか、いつお客様に連絡をとったかすぐ答えられます。

これも信頼を得る一つの方法です。電話の応対マニュアル自分で作り、机に貼つておいたこともありました。

もちろん、最初の頃はたくさん失敗しました。自分勝手な判断をしてしまい、結果としてお客様に迷惑を掛けてしまうこともありました。その都度落ち込みましたが、私は会社の良い先輩に相談することで、気持ちを切り替えることができ、自分の仕事を嫌いになることなく今に至っています。それは、社内でも社外でも、人との信頼関係を築こうと努力したおかげかもしだせません。パソコンができることや、資格を持つ

大学四年間でできること

一九九五年度卒業生 坂井 信介

敬和学園大学を卒業してから、早いものでもうすぐ七年が経ちます。いま振り返ると、大学の四年間というのは、何をするにしてもたくさんさんの時間がありました。その頃は、たくさんあつた時間のほとんどを、自分のやりたい事をして過ごしていたように思います。それが学生の特権でもあると思います。

現在は、印刷会社に勤め、仕事に追われる毎日で、なかなか趣味に費やす時間は多くとれませんが、休日には写真撮影に山へ行ったり、学生の頃から続いているバスケットボールを、先輩・後輩などと楽しんでいます。時々なのですが、現役学生と練習試合をしたりすることもあります。さすがに、三十歳に近くなると学生には体力ではついていけませんが・・・。

（表紙裏写真は坂井さんの撮影によるものです）

ていることも必要ですが、私は人といかに接していくかが重要だと思っています。相手の立場になって考えることは、当たり前のことですが、実は難しいのです。

三年経つと、もう新人扱いはされず、大きな責任を背負います。最近ようやく自分で仕事の進め方に自信や余裕が出てきたところです。

どんな仕事であれ、社会で働くことは自分が成長させます。これから社会人となる後輩のみなさん、がんばってください。きっと新しい発見がたくさん待っていると思います。

自分がやりたい事を見つけて、毎日それに熱中している後輩の学生たちを見ていて、うらやましく思います。今しかできない事や時間がたくさんあるときしかできない事ができるのが大学四年間だと思います。大学生が一番時間とお金（？）に余裕があると思います。どんなことでも、好きな事、熱中できる事を見つけて、大学四年間を思う存分に楽しいものにしてもらいたいのです。きっと将来、就職してからも何かの役に立つてくると思います。

最後に、敬和学園大学の開学と同時に創部したバスケットボール部が、これからも活動を続けて活躍していくことを願つて、応援していきたいと思つています。

オープンキャンパス

英語英米文学科二年 横山美幸

七月二十八日と九月八日の二回にわたり、オープンキャンパスが開かれました。私はたくさんの高校生にもっと敬和について知つてもらいたいなと思いながら参加していました。

私が高校生の時は、結構参加者が少なかつたのに対し、今回は多くの高校生が参加していたので、少し驚きました。高校生にとって、ネイティブの先生の授業は、すごく新鮮に感じたのではないでしょうか。事実、私もそうでした。授業はいつも日本人の先生だったので、最初は少し戸惑いましたが、うれしかったことを覚えています。

「敬和に入学したい」と言つてくれました。

「敬和に入学したい」と言つてくれた高校生がいて、嬉しかったです。私は主に教職についての話を聞いていたのですが、「先生になりたい!!」という参加



者の話を聞いて、「やりがいのある教科だから、入学したらぜひ頑張ってみて」と薦めると、高校生の頑張つてみようという意志が感じられ、受験までの時間を有意義に過ごしてもらいました。

座談会で、高校生と話していましたとき、「オープンキャンパスで目にした敬和の雰囲気に、今度

は実際に一人でも多くの高校生が触れることができたから、もっと楽しい学生生活が送れるはずだと私は思います。



本学の教職課程では地域の聖籠中学校と敬和学園高等学校で英語の授業におけるインターシップを行っています。これは有志の学生が毎週一時間から二時間、教員のアシスタントとして授業の中で学習支援を行うものです。聖籠中学校では「一人ひとりを大切に」という教育理念のもと、地域との連携による革新的な学校運営が始められ、本学の学生にとってそこでの体験は、先生方の教育への意気込みを丸ごと吸収するいい機会となっているようです。

この中学校でのインターナショナルや学内のティーチング・アシスタントを含めた実践的英語科教育法のカリキュラム開発が文部科学省の「教職課程における教育方法・内容の開発研究」の一つとして、昨年度研究委嘱事業に指定されました。本学から教職課程のカリキュラム・モデルを全国の大学に発信する課題を担っています。今後学習支援活動に参加してくれた学生たちの体験が貴重なデータとなります。

(英語英米文学科教授 柴沼晶子)

英語英米文学科四年 高杉瞳

教職課程を履修し、教員を目指す一人として、聖籠中学校と敬和学園高校での学習支援ボランティア体験を通して私が感じたことは、生徒たちは純粋で、素直で、何よりもかわいいということです。そこで主に私がしたのは、英語の授業で担当の先生とデモンストレーションを行ったり、ペアワークで生徒とペアになり活動したり、生徒が活動中に机の間を廻つて一人ひとりの作業を支援したり、生徒の質問に答えたりす

中学校・高等学校でのインターシップ

二〇〇一年度入試のご案内

A.O入学試験受付中

面談を中心に入学希望者の適性を総合的に評価する入試制度です。「面談申込カード」と「志望理由書」に基づいて面談Ⅰおよび面談Ⅱを行い、出願書類と併せて合格を決定します。学力試験は行いません。

推薦入学試験

(指定校推薦・特待生特別選抜)・(一般推薦)

「指定校推薦」は専願で、面接と調査書および特別活動等で合否を総合的に判定します。「一般推薦」は併願も可能で面接・調査書・特別活動等の他に小論文試験があります。

特待生特別選抜

指定校推薦枠(各学科五名)で評定平均値四・五以上の志願者を対象に実施する特別選抜で、合格者は、入学金を除く学納金が四年間免除となります(ただし、二年次以降は、一定の成績基準を満たすことが条件となります)。

一般入学試験(A日程 2科目型)

リスニング試験を含む英語と国語の2科目と調査書で合否を総合的に判定します。

試験場で英語と国語の問題内容を確認してから受験科目を選択できる1科目の入試ですか。英語にリスニング試験はありません。

一般入学試験(B日程 1科目型)

外国人留学生入学試験

日本語能力試験(一级または二级)を受験した者および受験する外国人の方を対象に小論文と面接により合否を判定します。なお、二〇〇二年度は特別選抜制度を創設。日本語能力試験一级で優秀な成績を修めた志願者を対象に選抜し、合格者は、入学金を除く学納金が四年間免除となります(ただし、二年次以降は一定の成績基準を満たすことが条件となります)。

外国人留学生入学試験

短大卒業見込みの方などを対象に小論文と面接により合否を判定します。十月と二月の二回実施します。

編入学試験(第一次募集・第二次募集)

提示された課題についての意見をまとめた後に面接試験を受ける入試です。

一般入学試験(センター入試)

センター試験の英語が必須、選択科目は国語、地歴・公民から1科目。他に調査書で合否を判定します。この入試による成績上位の入学者には、奨学金を支給します。

なお、A日程、B日程、センターハイスクールは重複受験が可能です。

一般入学試験(C日程 課題面接型)

大学では主に、授業での指導計画の作成や、指導法などの基礎や理論を中心に学んできました。そういう知識をふまえなければならぬのはもちろんです。しかし、実際の生徒は一人ひとり顔が違うように、学習スタイルや学習に対する姿勢も違います。一人ひとり異なる生徒の集まりであるクラスという集団の中で、個を尊重していくとする先生方の授業にアシスタントとして参加できたのはたいへん有意義な経験でした。生徒への接し方や、生徒は授業のどこでつまずくのか、つまずいている生徒に対してどのような支援をすることが効果的なかなど、数多くの実践的なことを学ぶ良い機会となりました。教師の働きかけと生徒の授業に対する取り組み方という生徒と教師の両方の視点から授業を観察できました。また、生徒とのふれあいを持ち、学習指導以外の教師としての仕事をつまびらかに知ることができ、このような教育活動全般にわたる経験は教育実習でも役に立ちました。先生方の姿から、教師は多くの引出しを持ち、生徒たちと授業以外でも交流を持ち、先生方の教育観や生徒に対する思いを聞くことができました。改めて教育の大切さへの認識を深め、教師になりたいという思いが強くなりました。

この他にも帰国子女、社会人のための特別入学試験も実施します。詳細については左記までお問い合わせください。

問合せ 教務課入試係

二〇一二〇一二六一三六三七
(入試委員会・入試室)

ボランティア実習を終えて

英語英米文学科一年 松永 献

三の丸保育園でボランティア実習をしました。朝八時半から夕方五時まで園内で○歳児から五歳児までの子どもたちと様々な活動を行いました。

実習の日程、施設が決定してすぐ保育園と連絡をとり、打ち合わせに入りました。保育園全体の雰囲気や実習当日の状況、スケジュールや諸注意、必要な物や園からの要望などをその時に伺いました。特に、七夕の演劇をすることは園からの強い要望で、あつたので、配役と役割分担を早急に決め、準備にとりかかりました。

実習日当日、各クラスに三~四名ずつに分かれ、まず園児と一緒に遊戯しました。最初は私たちも園児も戸惑い気味でしたが、子どもたちに積極的に接することで除々に慣れていきました。私たちの中に車椅子の学生がいます。彼に園児がどのように対応していくか心配でしたが、すぐに打ち解けていました。この光景みて、園長先生が「子どもはすごいね」と感嘆なさつていました。まったく同感で、感動的ですらありました。子どもたちにとってもよい経験だったでしょう。

その後、交流会と題して私たちは七夕の劇を演じ、子どもたちに大喜びしてもらいました。園児からも歌や踊りを見せてもらいました。その後、給食のお手伝いをしてからブール清掃をし、昼寝から起きた子どもたちと遊戯を楽しんで実習が終わりました。

実際に初めてボランティア活動に参加して、私のボランティア活動に対する意識が

少し変わりました。以前は、活動に参加することに意義があると考え、その内容について深く考えたことはありませんでした。しかし、対象となる人や現場の知識を得、その要望を知ることがボランティア活動をする上で必須であることを今回強く感じました。それらを見誤ったとすれば活動自体が対象者や従事者にとって迷惑な行為になってしまうのです。

「無料奉仕」というのが一般的なボランティア活動のイメージですが、立派なサービス業の一部だと確信を今回強めました。本年はボランティア国際年として、ネットワークの基盤作りが盛んに行われています。それだけに、しっかりとした土台の上になるボランティアが喜ばれます。

ボランティアには今回の保育園でのような小規模なものもあれば、災害時の大規模なものもあります。しかし、人を救助することも、ブール清掃をすることも、老人の話し相手になることも、その場の要望に適切に応えるという点では同じです。従事者だけではカバーできない部分をフォローし、何よりも相手に喜ばれる、このようなボランティアはこれから明るい未来を作るためには欠くことがでないものになるでしょう。



「七夕物語」ありがとう!!

三の丸保育園 園長 加藤 圭子

十四名の一年生のボランティア実習生が、七月四日に来園することになりました。「子どもとの思い出に出に残る交流」を考え、中国から日本に伝わったという七夕物語を七夕集会の前夜祭と名づけて、演じてもらいました。出演するにあたり、脚本、衣裳、配役、壁面飾り、パックミュー・ジックについて四回もりーだーが事前の打ち合せに足を運んでくれました。

よいよ当日です。遊技室の左右には、七夕の笹飾り、バックの壁面には、雲の上にそびえるお城というムードあふれる設定の中で、現代風にアレンジされた劇がくりひろげられました。金髪の織姫さま、作務衣姿で凛しい彦星さまの登場、神様、牛の演出もなかなかのもの、ピアノの生演奏も加わり、クライマックスを迎へ、大きな拍手が子どもたちの中からわき上がりました。十四名全員自分の役作りに対する真剣さが伝わってくる劇でした。子どもたちの感想は、「おりひめさまが、かわいかつた」、「ひこぼしさまが、かつこよかつた」等々。。。次は劇を見せてもらつたお礼に、子どもたちからのだし物で、体操、七夕さまのうた、合奏、手遊びを見てもらい、お兄さん、お姉さんから「かわいく上手だった」とほめられました。他にも乳児は、お姉さんに、おむつをかえつたり、おんぶしてもらつたり、食事を食べさせてもらつたりしました。幼児は、お兄さんのひざにだがれて好きな絵本を読んでもらついました。子どもたちにとって、思い出深い交流ができましたことを感謝しています。

敬和学園大学オープン・カレッジ《秋の講座》

毎年恒例の敬和学園大学公開講座を本年からオープン・カレッジに名称変更し、本年は春にも実施いたしました。下記のとおり一人の教員が同一のテーマで4回開講します。小さい部屋で小人数の対話形式で行いますので、今まで以上に充実した内容となっています。ふるってご参加ください。

昨年に引き続き敬和学園大学公開講座を開講いたします。今年からオープン・カレッジと名称変更を名称いたします。ふるってご参加ください。

《新発田市》

期 間：各テーマの開講日をご確認ください。
開講時間：いずれも 19:00~20:30
場 所：新発田市生涯学習センター
参加費：1テーマ 3,000円
(各テーマの初日にお支払いください。)
定 員：20名(定員になり次第締め切ります。)

開講日	テーマ	講 師
10/16, 23, 30, 11/6 (毎週火曜)	インドネシア情勢の背景 —スハルトの「私の履歴書」(日経新聞所載)を読む—	敬和学園大学教授 浅野 幸穂
10/17, 24, 31, 11/7 (毎週水曜)	新発田まつりを科学する	職人町獅子舞保存会長 野崎雄雄 氏 上町台輪一番組副頭取 谷川 行男 氏 新発田市観光開拓公社事務局 渡辺 一義 氏 敬和学園大学教授 神田 より子

《聖籠町》

期 間：各テーマの開講日をご確認ください。
開講時間：いずれも 19:00~20:30
場 所：聖籠町公民会館／聖籠町公民館
参 加 費：無料
定 員：20名(定員になり次第締め切ります。)

開講日	テーマ	講 師
10/3, 10, 17, 24 (毎週火曜)	歩いて動いて健康作り	敬和学園大学教授 久島 公夫
10/18, 25, 11/1, 8 (毎週木曜)	アメリカと日本：歴史、外交、経済	敬和学園大学助教授 ジェームズ・ブラウン

《三条市》

期 間：2001年10月19日～11月9日(全4回)
毎週金曜日 19:00~20:30
場 所：三条市中央公民館
参 加 費：500円
定 員：50名

日時	テーマ	講 師
10/19	映画でみる子育て	映画監督 小林 茂氏
10/26	子どもの人権	敬和学園大学助教授 福王 守
11/2	「発達相談」から見た地域における子育て	スクールカウンセラー 今成 京子
11/9	バネルディスカッション バネラー	敬和学園大学教授 永野 茂洋 敬和学園大学助教授 ジェームズ・ブラウン 敬和学園大学助教授 松本 ますみ 敬和学園大学助教授 金山 愛子 敬和学園大学専任講師 杉村 使乃

※受講を希望される方は、住所、電話番号、氏名、年齢及び職業をご記入のうえ、はがき、ファックス又はEメールでお申込ください。締切は、各テーマの開講初日の1週間前です。

＜問合せ先＞

敬和学園大学総務課総務係
〒957-8585 新潟市西区大字1270
TEL. (0254) 26-2394
FAX (0254) 26-3646
E-mail: kcop@keiwa-c.ac.jp

私はこれらのテーマは、思想史、神学史、文化史というよりも、民衆のメンタリティ(心性)の歴史、すなわちアナール学派の社会史で取りあげるテーマに近いと思っています。このようなテーマをゼミで取りあげるのは、現代文化や現代人の意識の背後ににある文明史的な源流とその展開を理解することにねらいがあります。社会が成熟してきたせいか、現代の学生はこういったテーマにかなり関心があります。

ゼミの始めには、新聞の論説記事を用いて、環境・人権・平和などについて即座に自分の意見述べる練習をしています。最近では、代理母、首相の靖国神社参拝、京都議定書の問題などを取りあげました。毎年四年生の夏休みには栗島で卒論合宿をします。

ゼミ紹介

国際文化学科教授

山田 耕太

一一〇〇一年度

保護者との懇談会



さる九月二十九日（土）、新潟市内のホテルにおいて、三年次生の保護者を対象に「二〇〇一年度保護者懇談会」を開催いたしました。保護者六〇余名からのご出席をいただき、本学からは教職員二十五人が参加しました。

第一部では、北垣学長の挨拶に続き、大海就職委員長から、本学学生の就職の現状について次のようないいがきました。「本年の就職環境はきわめて厳しく、この状態が来年も続くことは覚悟しなければなりません。学生には早期から卒業後の進路を考え、準備を開始することが求められています。本学としてもさまざまな指導を行っています。が、それに加えて保護者の皆様がたからも学生の進路や就職の問題について考えていただき、学生の一番身近な社会の先輩として良き相談者になつていただきたいのです。」大海委員長はこのように締めくくり、保護者のかたがたの共感を得ていました。

続いて石田就職室長から、今年度の就職状況と昨今の企業における採用活動の変化について説明がありました。「本学は就職状況の変化を踏まえた就職指導をしていますが、大事なのは学生自身が『やる気』を

もつて行動することです。さらに何よりも必要なのは、『自己分析』と『企業研究』です。以上のように石田室長は強調し、保護者のさらなるご理解とご協力を求めました。

海津後援会長の挨拶と乾杯の発声で始まつた第一部の懇親会では、約一時間半の時

間をかけて、教員と保護者の皆様との間でなごやかな懇談が行われました。就職活動だけでなく、学生の学業成績、家庭と大学での様子などについても十分な話し合いと情報交換がなされ、保護者の皆様と教員がコミュニケーションを図る絶好の機会となりました。

一一〇〇一年度

企業との就職懇談会

毎年恒例の「企業との就職懇談会」を、本年は来る十一月二日（金）、下記のとおり開催する予定にしています。昨年度は業務多忙のなか、約九十社一〇〇名の人事担当者の皆様にご出席をいただき、大学側からは北垣学長はじめ教職員二十五名が出席いたしました。

日時 二〇〇一年十一月二日（金）

第一部 講演 十六時～十九時
第二部 懇親会 十七時三〇分～十九時
場所 ホテル新潟三階 飛翔の間
(新潟市万代五丁目十一一二〇)

の間で今後の就職問題などについての意見交換を行う予定にしておりますので、一名でも多くの企業の皆様にご来臨賜りますようお願いいたします。

の間で今後の就職問題などについての意見交換を行う予定にしておりますので、一名でも多くの企業の皆様にご来臨賜りますようお願いいたします。

第三部 懇親会 十七時三〇分～十九時
場所 ホテル新潟三階 飛翔の間
(新潟市万代五丁目十一一二〇)

三年次生がこれから迎える厳しい就職戦線に対し、本学としては一人でも多くの学生がより満足度の高い就職が出来るよう、万全を期すことはもちろんですが、保護者の皆様からもより一層のご支援とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

芝田 晴郎 in サークル活動

by Q.



一
一九九七組
一九九六組
一九九四組
一九九三組
一九九二組
一般
一九九一組
酒井努
上田幸信
工藤功一、宮崎麗子
河野久美子
霍間慶子、时光耕平
原直樹、斎藤力、石木裕美
森陰孝友、新田和子
川本正仁、皆川靖、

寄付者ご芳名

第11回 敬和祭

~Theme~ Catch Your Dreams

変われる? 変わらなきや! 敬和祭新世紀

11月9日(金)・10日(土)・11日(日) 敬和学園大学キャンパス

■主催／敬和学園大学敬和祭実行委員会 ■共催／敬和学園大学 敬和学園大学後援会 敬和学園大学オレンジ会

イベント内容(予定)

9日(金)	ふれあいバラエティ	社会福祉施設の入居者をご招待しての音楽会。一般の方もご覧いただけます。
10日(土)	学生ライブ	学生・一般公募のアマチュアバンドによる野外ライブ
11日(日)	アイヌ文化体験交流会	アイヌ伝統文化をわかりやすく紹介。アイヌ民族伝統楽器「ムックリ」(口琴)の演奏体験もできます!

10・11日には食べ物屋台やフリーマーケット、サークル・ゼミの発表展示など、楽しい企画が盛りだくさんです。

~詳細はお問い合わせ下さい~

お問い合わせ先／敬和学園大学 敬和祭実行委員会 TEL.0254-26-2509

◆十月◆

三十一日	聖籠町オープン・カレッジ①
十六日	新発田市オープン・カレッジ① (四回連続)
十七日	新発田市オープン・カレッジ② (四回連続)
十八日	聖籠町オープン・カレッジ② (四回連続)
十九日	三条市オープン・カレッジ① 帰国子女・社会人・編入学
二十日	三条市オープン・カレッジ② (第一次) 入試
二十六日	三条市オープン・カレッジ③ 企業との就職懇談会
二十七日	三条市オープン・カレッジ④ ふれあいバラエティー
二十八日	聖籠町オープン・カレッジ② 敬和祭(→十一日)
二十九日	三条市オープン・カレッジ③ ふれあいバラエティー
三十日	三条市オープン・カレッジ④ 敬和祭(→十一日)
十一月	クリスマス行事
十二月	推薦入試
二十四日	冬期休暇(→一月八日)

学事予告

FROM CAMPUS

キャンパス日誌

7月

- 2日 辞令交付
 4日 敬和ボランティア・デイ
 新発田市オープンカレッジ2—③
 講師 田中利幸 教授
 「戦争と平和を考える：近代日本戦争史の批判的検討」
 6日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩
 説教 延原時行 宗教部長「良寛ヒルター」
 講演 木幡幸子 アイヌ文化振興会会員
 ビデオ上映「アイヌ文化を学ぶ」
 豊栄市オープン・カレッジ③
 講師 矢嶋直規 助教授「環境教育」
 10日 聖籠町オープン・カレッジ2—④
 講師 杉村使乃 専任講師
 「大人が見るディズニービデオ」
 11日 教授会
 13日 前期講義終了
 チャペル・アッセンブリー・アワー⑪
 説教 北垣宗治 学長「精神の冒険」
 講演 山崎ハコネ ボランティア主事、基礎演習代表学生
 「ボランティア実習報告会」
 豊栄市オープン・カレッジ④
 講師 渡邊登 非常勤講師「ジェンダー教育」
 14日 ワシントン外国语アカデミー夏期短期留学（7名）
 出発（～8月20日）
 15日 環日本海研究ネットワーク国際シンポジウム（写真）
 「東北アジア歴史像の共有を求めてⅡ」



- 16日 補講日（～22日）
 17日 本丸中学校生徒（2名）図書館での職場体験学習
 18日 県立村上桜ヶ丘高校（44名）来学
 23日 前期末試験（～8月3日）
 高校生のためのオーストラリア異文化交流
 プログラム（6名）出発（～8月6日）
 加茂暁星高校（8名）来学
 県立新井高校（46名）来学
 25日 大学教育会議⑨
 人事教授会
 27日 豊栄市オープン・カレッジ⑤
 講師 櫻本栄次 敬和学園高等学校長
 「人になる教育」
 人事教授会

- 28日 オープン・キャンパス①（参加者92名）（写真）



8月

- 3日 豊栄市オープン・カレッジ⑥
 講演 山崎ハコネ ボランティア主事
 「死の教育」
 4日 夏期休暇（～9月24日）
 カリフォルニア州立大学サンバナディーノ校
 夏期短期留学（1名）出発（9月9日）
 6日 集中講義（～8月10日）
 14日 オーストラリアアルメボルン大学ホーリン・
 カレッジ長期留学（1名）出発（～12月7日）
 16日 長春師範学院副院長他1名来学（～8月17日）
 （写真）



- 27日 新発田まつり民謡流し参加
 （職員16名、学生38名）（写真）



9月

- 8日 オープン・キャンパス②（参加者76名）
 12日 前期追試験（～14日）
 14日 第10回学生リトリート（於：下越スポーツハウス）
 講師 大沢秀夫 日本基督教団松本教会牧師
 「地球時代の人生の目標」（～9月15日）
 17日 教育実習事前指導（～19日）
 オーストラリアアルメボルン大学ホーリン・
 カレッジ長期留学（2名）出発（～3月19日）
 25日 履修指導日（1・2年次）
 26日 後期講義開始
 後期履修登録（～10月2日）
 教授会
 29日 保護者との就職懇談会（於：新潟東映ホテル）